

一 般 質 問 通 告 事 項

(平成30年第4回白岡市議会定例会)

第1通告者

13番 石原富子 議員

1 白岡高等学校を更に地域で盛り上げるために

埼玉県教育委員会が県立高等学校の再編整備を行い、現在より1割減らすとの方針を打ち出した。白岡高等学校もその対象にならないか心配している。当市にとって白岡高等学校は重要な存在である。存続のための方策を伺う。

- (1) 県の統廃合の考え方は。
- (2) 市の対応策は。
- (3) 市全体としての対応は。

2 手話言語条例の制定について

聴覚障害者の重要なコミュニケーション手段である手話を、市民に更に定着させるためには手話言語条例の制定が必要である。

- (1) 必要性をどのように考えるか伺う。
- (2) 現在の聴覚障害者に対する施策は。
- (3) 白岡市として今後の方向性を伺う。

3 生涯学習センター〔こもれびの森〕の活用について

10月にオープンした〔こもれびの森〕は好評であるが、図書館機能を有する生涯学習施設として、今後市民に親しんでもらうための方策を伺う。

- (1) 生涯学習センターは、白岡の街づくりの中でどのような位置づけと考えるか。
- (2) 新図書館の目指すものは何か。
- (3) 目標達成のための方策は。

第2通告者

14番 大倉秀夫 議員

1 小学生にランドセルの無償貸与を

- (1) 児童生徒の登下校における持ち物の重さについて、どのような配慮をしているか。

(2) 軽いランドセルの貸与または無償化を検討してはどうか。

2 白岡駅西口の開発計画について

白岡駅西口ロータリーを含め、附近の計画と開発の進捗状況について伺う。

第3通告者 8番 遠藤 誠 議員

1 市民農園に荒廃農地を保全することはできないのか

- (1) 市民農園は農地保全の強い味方にならないか。
- (2) 市内に貸農園はどのくらいあるのか。また、国の補助は受けていないのか。補助金の受け方について。
- (3) 農地の保全は、市民農園ではできないか。また、市は市民農園の補助金は興味がないのか。
- (4) 羽生市の農業団地をどう思うか。

2 アクティブシニア活躍支援事業後のシニアの受け皿について（シルバー人材センター、社会福祉協議会）

- (1) 当該事業とシルバー人材センターの重なりは。
- (2) 当市のシルバー人材センターの現状をどう見るか、使えるか。
- (3) 経済か精神か、スピリチュアル（精神的）が重要なのではないか。
- (4) 都市に逃げていくアクティブシニアをどうするか。
- (5) スピリチュアル（精神性）を担保するためにはどうしたらよいか。
- (6) 幹部がよそからくる組織、同質な組織の限界を打破したらどうか。

3 自分以外の「ふるさと」も尊重するなど

- (1) 白岡市民の「ふるさと」は白岡だけではない。ほかに「ふるさと」を持つ市民の気持ちを大切にす政策立案をしたら。
- (2) 『「いつも同じ仲間」は、なしよ。』とあるように、多様な人脈を活かす政策立案をしたらいかが。

第4通告者 17番 高木 隆三 議員

1 犬猫の殺処分ゼロ対策を

全国の犬猫の殺処分は、全国で約4万匹いた。放置できない問題である。

- (1) 当市において、保護された犬猫はどのくらいか。また、そのうち

殺処分された数は。

- (2) 2012年成立した改正動物愛護管理法では、ペットが命を終えるまで適切に飼育する「終生飼養」の責任が明記されている。当市の取組について伺う。
- (3) 殺処分を減らす上で有効な対策として、保護するシェルターを整備し、譲渡会の開催等取り組む考えはないか。
- (4) 高齢化などで、飼育が困難となるなど、対策が必要である。担当課に相談窓口を設置する考えは。

2 結核対策について

高齢者の罹患率が高いことから、自治体でも早期発見へ取り組む必要があるのではないか。当市の結核発症率と対応について伺う。

3 乳幼児の家庭内事故について

- (1) 平成18年9月定例議会において、乳幼児の不慮の事故防止対策について聞いた。その後の対応について伺う。
- (2) 乳幼児の不慮の事故には、どのような事故が多いのか。
- (3) 東京都葛飾区では、乳幼児事故防止対策啓発用住宅模型「ヒヤリハット ジオラマ」を設置し、乳幼児健診等で訪れる親子らに注目されている。白岡市としても、保健センター等に設置する考えはないか。

第5通告者

3番 関口昌男 議員

1 生活困窮世帯の子どもたちの学習支援事業を小学生まで拡大を

- (1) 現行の学習支援事業の内容について。
- (2) 会場を市内に移行する課題について。
- (3) 学習支援事業の成果について。
- (4) 学習支援事業を小学生まで拡大しては。

2 国民健康保険財政のこれからについて

- (1) 国民健康保険の都道府県化の影響について。
- (2) 全国知事会等地方団体の要望事項について。
- (3) 白岡市の国民健康保険の改善方向について。
- (4) 白岡でも繰入金を活用して国保税の引き下げを。

第6通告者

16番 菱 沼 あゆ美 議員

1 学校施設における防災について

- (1) 学校施設は災害時に避難所となる。地域住民のための効果的な活用や児童・生徒の教育活動再開などを考慮した学校施設利用計画について伺う。
- (2) 危機管理マニュアルは、どうなっているか。見直しなどされているか。
- (3) 避難所となる体育館にエアコン設置が必要と考える。推進してはどうか。
- (4) 体育館のトイレについて、現状や今後の課題を伺う。

2 保健事業について

- (1) 新生児聴覚検査は、1,000人に1~2人の割合で発症する先天性難聴を早期発見することで、生活や言語、コミュニケーションなどの支援につながる重要な検査である。現状は、どのくらいの人を受けているか。また、久喜市が助成を始めるが、白岡市も行うべきではないか。
- (2) 流行中の大人の風疹予防については、県の検診無料や市の予防接種一部助成が行われているが、情報が届きにくい現状ではないか。利用状況や周知などについて伺う。

第7通告者

15番 江 原 浩 之 議員

1 白岡駅西口線について

- (1) 白岡駅西口線の事業認可区間の進捗状況は。
- (2) 事業認可区間以外の事業予定は。

2 市の公共施設のマネジメントについて

- (1) 個別施設計画の内容と策定の進捗状況は。
- (2) 旧庁舎の今後の取扱いは、どうなるのか。

第8通告者

1番 井 上 日出巳 議員

1 行政評価制度について

- (1) 平成30年度から導入されたが、進捗状況は。
- (2) 行政評価の目的は「市民満足度」なのか「行・財政改革」なのか。

- (3) どのように公平、客観的な定性評価をするのか。
- (4) 予算編成へ活用するための行政評価のサイクルは。

2 農業問題について

- (1) 農地中間管理機構（農地バンク）の実績は。
- (2) 受け手（借り手）はどんな人達か。
- (3) 問題や課題はないか。

3 S A I T A M A 出会いサポートセンター（恋たま）について

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえることは地域の活性化につながる。埼玉県結婚支援センター〔S A I T A M A 出会いサポートセンター（恋たま）〕に協賛しては。

第9 通告者

2 番 渡 辺 聡一郎 議員

1 街の将来像を踏まえた計画的な道路整備を

限られた財源の中で、幹線道路のみならず各地域の生活道路の整備も求められている。都市の将来像を踏まえた計画的な道路整備が必要と考える。

- (1) 市内道路全体の整備状況について伺う。
- (2) 県道に関する市からの陳情・要望の提出状況について伺う。
- (3) 今後の道路網計画と道路整備の優先順位について考え方を伺う。

2 大規模事業と財政計画について

都市計画道路等のインフラ整備が進められる一方、新たな大規模事業も控えている。中長期的な視点に立った事業推進と財政運営が必要と考える。

- (1) 5年間で普通建設事業に充てられる一般財源は。また5年間で実施する土地区画整理事業及び都市計画道路整備事業の事業総額は。
- (2) 白岡中学校周辺区域開発の財政見通しについて伺う。（現段階における歳出試算と歳入見込み）
- (3) 中長期的な視点に立った事業推進と財政運営のため、中期財政計画の策定と公開が必要ではないか。

第10 通告者

5 番 松 本 栄 一 議員

1 多面的機能支払交付金事業について

- (1) 当市における活用状況について、現在、活動中の組織数、各組織への参画団体、各組織の取組状況（面積、支払交付金の種類、構成員数等）は。
 - (2) 活動組織の構成について、農業団体だけでなく、非農家（自治会、子ども会等）にも拡大していく考えは。
- 2 生活道路の安全確保について
- (1) 市の整備計画及び行政区の要望分に対するU字溝の蓋架け、白線の整備状況は。
 - (2) 市道104号線（県道さいたま幸手線から宮代線）は、宮代町側はU字溝に蓋架け済みであるが、当市の整備予定は。

第11 通告者

9番 黒 須 大 一 郎 議 員

1 太陽光の2019問題対応を急げ

脱炭素社会に向けての牽引役となるためにも、今から賢い再生可能エネルギーの活用方法を考えられる環境づくりを。

- (1) 市は家庭用太陽光の買い取り期間終了に対する認識をどう考え、どう対処するのか。国や電力会社の動向は。そして、対象となる家庭は、どう受け止めているのか。助成外も含め、どの程度把握しているのか。
- (2) 対象となる一般家庭は、取りあえず新設備の必要がないが、期限が切れる前に新たな売電先を探す必要があり、公の支援が急務だが。
- (3) 電気をためる方法が、時間帯や天候によって発電量が変動する太陽光の弱点解消にも繋がり効率的に使うことができる可能性があるが、蓄電池は200万円近く、高価で設置に踏み切れない。助成を。

2 認知症に対する支援体制の充実を

- (1) 「支援の空白期間」という問題。医療体制が整ったこともあり、認知症の初期で診断される人が増えているが、その時期の支援は。
（町田市は、高齢者を対象に認知症発症の遅延化を目的に65歳から「認知症予防教室」を実施している。「ウォーキング」「旅行」「料理」中から1つを選択、自立したグループ活動の定着・維持を目的とした5日間のプログラムとなっている。また、実施前後にファイ

ブググという脳機能検査を実施することで効果を確認できる点も魅力であり、その後の地域の自主グループ活動に繋がっている。)

(2) 認知症の啓発は十分といえるか。サポーター育成を環境づくりととらえ、市民が自ら動けるまちづくりに繋げて。(山鹿市は、認知症施策を高齢・要介護者の課題に止めることなく、様々なまちづくり活動に繋げる取組が行われている。)

(3) G P Sによる行方不明防止策をしているが、頻繁に行方不明が起きている。利用者に有効な方法や情報伝達ネットワークを構築し、声かけ模擬訓練で周知を。(山鹿市は、搜索協力する意志がある人のネットワーク参加者が、どのように声掛けすれば良いのか具体的な訓練をし、成果を上げている。)

3 その時どうするの。避難所運営と健康管理は

(1) 災害は、365日昼夜問わず突然起きる。指定避難所はだれが開けるのか。職員が中心なのか。職員が駆けつけられない場合は。

(2) 国のガイドラインは「被災者自らが行動し、助け合いながら避難所を運営する」ことが求められている。そのための訓練・演習は。

(3) 平時はもちろん、いざという時にも有効な、まちの保健室事業を。市内の指定避難所に救護室ほどの程度開設できるのか、そのレベルは。

(4) ペット等がいる世帯への対応は、どのようになっているのか。動物病院やペット関連店などと協議し、連携すべきだが現状は。

4 2030年(12年後)白岡の教育について

文部科学省は、A I技術等が発達した社会で生きることになる子どもにどんな能力が必要なのか、有識者や若手職員が議論し、今年6月に報告書をまとめ、学びの在り方の変革が必要だとして、今の学校で行われている一斉一律授業や同学年集団での学習、学校教室を使う学習の見直し等にも言及している。また、経済産業省は、「エドテック」(E d T e c h : 教育E d u c a t i o nと技術T e c h n o l o g y)の導入の実証事業を始めることにしている。

12年後の教室がどう変わるのか。授業の効率化にI Tをどう活用

するのか。そのために、学校再編や小中一貫教育等、教育環境の再編が求められるが、準備または計画はどうなっているのか。

第12 通告者 7番 大島 勉 議員

1 ICT教育について

- (1) 当市の現状は。
- (2) 国からの指導と照らし合わせ、どの程度進んでいるか。
- (3) 教員のICT利用状況は。また、児童生徒は。
- (4) 今後の方針と展開をどのように考えるか。

2 防災について

- (1) 避難に関する周知はどのように行われているか。
- (2) 避難所は適正に設置されているか。また、十分と考えるか。
- (3) 非常放送が届かない場所についてどう対応しているか。

第13 通告者 4番 斎藤 信治 議員

1 授業のUD化推進を

- (1) エレベータやエスカレータは、車いすの方などのために設置されたものだが、健常者にとっても有効なものとなっている。同様に、障がい者などの個性に応じた工夫が通常教室でも有効であることが認識され、普遍的な工夫、UD（ユニバーサルデザイン）として広がりつつある。市内小中学校での現状を伺う。
- (2) 授業のUD化には、特別高価な道具を必要としない。個々の先生が、それぞれ工夫した内容を持ち寄り、学校全体、市内の全学校で共有し、白岡市をUD授業先進地にしてはどうか。